

快晴の「奥又白池」へ。

2011.10.9～10 単独行

10/9 (日) 快晴 7:10～(買い物、給油)～ 8:10 (29KM) 松本電鉄上高地線 波田駅 8:26 (電車)～8:32 新島々駅 8:40～(バス) 9:50 上高地バスターミナル～河童橋 10:20～11:20 明神池 11:40～12:45 徳沢キャンプ場 (1550M) テント泊

10/10 (祭) 快晴 5:25～6:30 中畠新道分岐 6:40～8:05 前穂高岳の科尔群や屏風の頭などの展望の良い場所 8:25～8:35 5～6の科尔への分岐 ～8:40 奥又白池 9:50～11:00 パノラマコースとの分岐 11:15～12:05 徳沢 (テント撤収、食事) 13:20～15:15 上高地B T 16:00～(バス) 17:05 新島々駅 17:24～(電車) 17:30 波田駅 17:35～18:20 自宅

憧れの「奥又白池」！ 行ってきました。10/8～10 と千葉の息子夫婦が孫を連れて帰省予定でしたが、まだ生後4ヶ月で長旅は無理なので、11月にこちらから孫の顔を見に行く事に変更になった。好天予報で迷わず決行。松本市のUさんが何度も行って、同行してもらった話もありましたが(其の時は私は徳沢園泊で)。彼女達は何時も日帰りとの事。9月に購入した(年甲斐も無く)テント、寝袋類の初使用を兼ねての山行になりました。2001年の10/3～5にパノラマコース～涸沢～徳沢ロッジ(泊)～天狗原、氷河公園～槍沢ロッジ(泊)～上高地。の紅葉の写真を撮る思い出に残る山行をした。快晴でリバーサルフィルムで素晴らしい写真が沢山撮れました。マウントにしてあります。家にも何枚も飾ってあります。屏風の科尔からの前穂～槍ヶ岳間の大展望と天狗原からの槍ヶ岳の展望は脳裏にシッカリ記憶されています。

急な計画で、3連休。沢渡の駐車場が満車では？と前日になって慌てて現地に問い合わせるとやはり満車状態との事。松本市のN氏に相談すると波田駅から電車、バスを薦められる。158号線も渋滞だろうしそうする事に。用心深い小生は中畠新道の取り付きが分りズライとのネットの情報もあり、Uさんに聞く。「分岐から30M位で右の尾根に取り付くように」とのアドバイス。

道路が嘘のように空いている。沢渡の駐車場はいずれも「満車」の立て看板が出ている。路肩も完璧に路上駐車列。観光バスも乗り入れ禁止にしたようで釜トンネルから先もスイスイ。拍子抜けする。(帰路はダメだろうと覚悟していたが、マッタク渋滞無し。不思議だ。高山の秋祭りの日程が変更になったせいか?) 昔はこの3連休は大渋滞だった。

久振りの上高地。人出は少なめ。今日は徳沢までなので、河童橋を渡って自然探勝路経由で歩く。

河童橋からの展望



河童橋と焼岳



明神池



明神池も久振りに寄る。入場料 300 円取られる。そのせいもあり、池からの景色もたいした事はない。池自体底が泥状でイワナの影も無い。数分で退場。ガッカリ。ザックが重い。徳沢の手前に明神岳の東面が見事な所がある。徳沢は多くの人で賑わっていた。テントも多い。場所を選び設営する。昔は牧場だった草原なのでテント場としては張り易い所だ。氷壁の宿、徳沢園へ 500 円の張り賃を納めて、500 ML 550 円の缶ビールを購入する。車が通る場所なので安い。少し早いが飲み始める。次々にテントが増えていく。そんな情景を見ながら一人酒。今日は

マタタビ酒と梅酒を持参した。お湯割で飲む。お隣は 60 歳代の男 3 名と若い美人な女性の 4 人組。私と同じヘリテイジの大きめのテント。その後私と同じ位の単独が 2 人、傍で設営を始める。私はその手順などを飲みながら観察する。2 人共かなりのベテランで手際良く設営が進む。参考になった。彼らの人生や登山経歴などを想像したりしながら。夕昏と共にテントの数は増えて 100 張り位になった。

明神岳東壁

徳澤テント場、手前が私のテント



暗くならない内に就寝する。周りは宴会や夕食などで賑やかなようだが、私は人工内耳をはずしてしまえば、雑音は一切入らないので寝つきは良い。夜中に目が覚めてしまい早めにパンを食べたりして暗い内に出発する。ナップサックの軽身なので足取りも軽い。中島新道の入り口で小休止。

中島新道入り口

遭難慰霊碑



4人組みが取り付きに向かっている。100~150M位「松高ルンゼ」を直進してから右の尾根に取り付く。Uさんの言うとおりの通り。取り付き点の少し上に青色?の「遭難レリーフ」がある。これを目安にすると良いかも。ネットでも「こんな急な登山道は経験した事がない」「アルプス3大急坂など問題にならない」等々の記述があるとうり、確かに急坂の連続だ。地図で見ても1880Mの分岐から1KM位の距離の奥又白池までに標高差が600M位ある

ハンパではない。すぐ単独行の下山者と擦れ違う。昨日はテント5張りのみとの事。連休で張り場所が無いほどかと推定していたので意外だ。「山と溪谷」10月号の紅葉特集にバリエーションルートで、涸沢~5、6の科尔~奥又白池のコースが掲載されているので大勢押し寄せると思っていたので。私は登りはまだ強いのであまり苦にはならないが。下りが心配だ。途中で先行の4人組に追いつく。何と隣のテントの人達だ。お互いに意外性に驚く。埼玉県深谷市の山岳会との事。樹林帯から出て、開けた展望の良い場所に出た。休憩する。目の前は前穂高岳の科尔群が見事。

前穂 5~6 の科尔方面



ナナカマドが多いが皆枯れている。今年の異常気候で紅葉する前に枯れてしまったのだ。紅葉してれば抜群に良い写真が撮れるのだが。ダケカンバも多いし。残念無念。Uさんの言う「一本のダケカンバ」も見える。池は近いのだ。少し歩くと5~6の科尔からの踏み後と合流。すぐ池に到着する。私が今日の一番乗りのようだ。昨日テント泊した2人組が居た。池の前には前穂高岳がドッシリと大きい。此処からは岩登りの世界だ。ルンゼが幾つかある。水場を探す。確かにある。こんなところでテント泊したいと思うが、基本的に

は幕営禁止地区。排泄物や紙が散乱している。この場所はせめて「携帯トイレ」持参が必要だ。何時までも後世に残したい静かな場所だ。飽きない展望をユックリ味わう。独り占めの世界。それにしても想定外の少なさだ。誰も来ない。結局この日は5パーティ15人のみ。膝、腰で苦手な下りも得意の?ストックワークを駆使して「山溪」コースタイムの2時間の半分近い1:10で下山する。

池から 5~6 の科尔方面



軽身とトレッキングタイツ着用が良かったようだ。持参したサポーターは使用しなかった。パノラマコースとの合流箇所でするのでトレッキングタイツを脱ぐ。涸沢からの下山者が列を作って歩いている。途中井上靖の小説「氷壁」で有名になったナイロンザイル切断による「遭難慰霊碑」が道端にあった。休憩者などで賑わう徳沢に到着。テントの撤収をして、缶ビール飲んでユックリする。本当に此処はノンビリできる場所だ。

池と前穂高岳



上高地からのにわかハイカーも多い感じだ。
また重いザックを背負って、帰路を急ぐ登山者が列を作って歩く道を上高地へ。今の私の膝、腰ではこの重みのザックを背負っての登山は不可能と感じた。上高地ビジターセンターを見学してごったがえすBTへ。時間があるのでベンチで話した60代の2人組みは涸沢でテント泊。テントを張る場所が無くて川原のような所を平らにして設営したとの事。トイレは30~40分待ちの行列とか。新宿への直通バスで帰るとかで(片道7000円との事)、缶ビールを美味そうに飲んでいる。私も飲みたくなかったが今からではアルコールが残りそうで我慢。帰路もマッタク渋滞無し。ちなみに新島々行きは大型バス2台で満席。1900円X110人=20万円。アルピコさん大儲け。山小屋が混む時期とはいえ、テント泊が増えている感じがしました。

特に若い人達は。ザックの大きさとマットの有無でわかりますので。私は登山講習会で山中ビバーク体験(ツェルト泊)、鋸岳登山で大岩下の岩小屋でツェルト泊に続いて3回目です。(テントは初めてです) 餓鬼岳~唐沢岳と同様快晴で良い山行でした。次は高谷池ヒュッテ泊で火打~焼山予定です。